



プール掃除

隅照燈一

発行
平戸市立平戸小学校
文責 校長 永田健治

児童数 348名
教職員数 34名

創立149周年



発行：平戸市立平戸小学校 〒859-5121 平戸市岩の上町1509番地 TEL：0950-22-9230
E-mail：hirado-syo@educet03.plala.or.jp ホームページ：平戸市立平戸小学校で検索



梅雨入りはしましたが

充実した学びの実践



5月14日（日）に開催した運動会は、PTA役員の皆様はじめ保護者の方々の協力により盛大に終えることができました。学級だけでなく、活躍した姿だけでなく、練習等を通して、子供たちの成長が伝えられたと思います。温かい声援ありがとうございました。

さて、すでに梅雨入りし6月が始まりました。5月14日（日）に開催した運動会は、PTA役員の皆様はじめ保護者の方々の協力により盛大に終えることができました。学級だけでなく、活躍した姿だけでなく、練習等を通して、子供たちの成長が伝えられたと思います。温かい声援ありがとうございました。



縦割り遊び

5月31日（水）雨上がりの午後、全校児童が16班に分かれて縦割り遊びを行いました。6年生をリーダーとして、「だるまさんが転んだ」「ハンカチ落とし」「ドッジボール」「鬼ごっこ」などで楽しみました。高学年は

低学年も楽しめる工夫や配慮をしながら、最後までお世話をしていました。みんな優しい心の持ち主です。かつて（平成の初期頃まで？）は、地域にガキ大将的な子が下級生をまとめ一緒に遊ぶ姿も見られ、年齢の異なる集団の中で、いろいろなことを学んだものでした。



今は、その光景もなくなりましたね。

交通安全少年団 動きました！

5月17日（水）～19日（金）に交通安全少年団が新町、郵便局、幸福の交差点に出勤しました。全国と県で毎年実施されている「全国交通安全週間」期間中の約3日間、所定の場所です平戸小学校交通安全少年団のメンバー（6年生有志22名）が、登校時間帯に交通安全運動を行います。本校では、平成26年4月2日に5年生を迎えるはずだった男児が交通事故で命を失いました。この悲しい事故を風化させない



いために、この活動は続けていくことを教職員と確認しました。

家庭訪問 ありがとうございます

5月24日（水）から5日間、家庭訪問をさせていただきました。家庭訪問を行う理由としては、家庭環境を知ることができ、保護者の方と直に話ができる、家の場所を把握して周りの状況も確認できるなどです。保護者の方々に教師を知っていただく機会でもあります。

プール掃除



6月2日（金）に高学年が雨上がりの午後プール掃除を行いました。今年度は、特に藻の発生や汚れがひどかったこともあり子供たちは悪戦苦闘していました。が、デッキブラシや高圧洗浄機を使い、プールもみるみるきれいになりました。6月中旬にはプールの満水となり、水泳の授業が始まります。水着や水泳帽などの準備をよろしくお祈りします。

玄関先家庭訪問ということで、時間が十分とれず物足りなさを感じられた方もいらっしゃるかと思います。ご心配なことがある場合は、まずは、担任へお知らせください。必要に応じて面談の時間を確保することも可能です。

木村指導教諭の特別支援教育

みんなちがって、みんないい(その3) 抜粋

今回は「子育て」「教育」における「応用行動分析学」について簡単に話します。

「応用行動分析学」を使った子育てのキーワードは、「良くないことをしているのに、報酬を与えてはいけない」です。人の行動は条件によって決定づけられていきます。良い行動も悪い行動も、条件によって強化されたり弱

化されたりします。「宿題」で考えてみましょう。例えば「ゲームやテレビの視聴は、宿題が終わってから」という約束をしたとしましょう。子どもが「後で絶対に宿題をするから、少したけゲームがしたい」「今見ないと好きなテレビ番組が終わってしまう」などの条件を出してきた時、みなさんならどのように対応しますか？

「交換条件には乗らない」が正解です。このような条件の提示は「お試し行動」です。

「お父さんお母さんはどんな交換条件を出せば、自分のいうことを承諾するだろう」と子どもは親を試しています。一度、交換条件をのんでしまうと、必ずしも同じ要求をしてき

ますし、突っぱねると更なる行動(例えば泣いたり叫んだり、物を壊したり家を飛び出たり)などの抵抗を見せるかも知れません。根負けして許してしまうと、「良くないことをした」↓「欲しいものが手に入る」という経験を重ねることで「負の行動」を「強化」していくことになります。

これがスキナーの言う「人の行動は過去の結果に依存する」ということなのです。これは「こころの脳」の成長段階で、間違った道徳

観念・倫理観を育ててしまうことにも繋がってしまう場合があります。例えば少年期や青年期の喫煙や飲酒を見逃したり、繁華街を親が連れ歩いたりしていると、法律や規則を簡単に破り、そのことへの罪悪感が希薄になっていきます。また、「嫉(しつけ)」と言って子どもを叩いたり、暴言や汚言で脅したりしてしまったり、子どもが親になつた時に同じような育て方をしている返されてしまうのです。このように将来の子ども

の人格形成にも大きく影響を及ぼす最大の環境が親・養育者ですが、「何があっても子どもの交換条件には乗らない」という我慢強さを持つこと、思春期の子どもに手を焼くのはこのためでもあります。子育ては忍耐力を必要とする大変なことです。前述のような状況は「負の強化」が行われたことになります。

「正の強化」を行うのであれば、「毎日、決まった行動(手伝いをする・学校の準備を一人でするなど)」を行う条件を満たした場合に【報酬を与える】ようにします。そうすると「条件を満たせば、ご褒美が貰える」という行動を学びます。このように「報酬(褒める・承認する・お菓子やゲーム時間の延長など)」や「嫌悪刺激(報酬を与えないなど)」に適切して、自発的に行動できるようにしていくことを心理学用語で「オペラント条件付け」と言います。この理論を日常生活の様々な場面に置き換えて考えてみてください。子育てのヒントがたくさん生まれてくるのではないのでしょうか。

「正の強化」を行うのであれば、「毎日、決まった行動(手伝いをする・学校の準備を一人でするなど)」を行う条件を満たした場合に【報酬を与える】ようにします。そうすると「条件を満たせば、ご褒美が貰える」という行動を学びます。このように「報酬(褒める・承認する・お菓子やゲーム時間の延長など)」や「嫌悪刺激(報酬を与えないなど)」に適切して、自発的に行動できるようにしていくことを心理学用語で「オペラント条件付け」と言います。この理論を日常生活の様々な場面に置き換えて考えてみてください。子育てのヒントがたくさん生まれてくるのではないのでしょうか。

木村栄指導教諭

田平北小学校に所属し特別支援教育について市内小中学校に指導助言を行う。

働き方改革 取組中



平成31年1月文部科学省の中央教育審議会(中教審)専門部会で、学校における働き方改革の答申案が示されました。

答申案に次のような一節があります。

「子供のためであればどんな長時間勤務もよしとする、という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは子供のためにはならない。教師のこれまでの働き方を見直し、教師が我が国の学校教育の蓄積と向かい合っている自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすること、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うこと。」です。

決して、教職員が楽しそうとか、手を抜こうというのではありませんので、どうぞ御理解いただきますようお願いいたします。

教育活動を行うことができるようになることが学校における働き方改革の目的であり、そのことを常に原点としながら改革を進めていく必要がある。」

保護者、地域の皆さまに、学校の働き方改革がなぜ必要なのか、その理由を御理解いただいた上で、本校も働き方改革に取り組んでまいります。

本校の4月の残業時間は一人平均35時間25分でした。働き方改革法案で定められている上限45時間を超える教職員は5人、最長残業時間は、教頭で71時間でした。あと9時間で過労死レベルとなります。働き方改革の目的は、最終的には「子供たちに効果的な教育活動を行うこと。」です。

決して、教職員が楽しそうとか、手を抜こうというのではありませんので、どうぞ御理解いただきますようお願いいたします。